

## 教師力は3つ　〜サクセスログ〜

組織局長　岡本　美穂

「教室はまちがうところ」、この考えを否定される先生方はおられないでしょう。しかし、最近思うことがあるのです。それは、教師という仕事は、言葉に縛られてしまうことが多いということです。この言葉を紹介する先生方は、子どもたちが間違った発言をしたのなら、教師や友達できっちりフォローしていき、間違いや失敗から這い上がるのが大事だと伝えていきたいのだと思います。全くおかしい話ではありません。私もそう信じて子どもたちに何度も紹介していました。

### ①目の前の子どもたちをスタートに

ただ、どうも子どもたちを見ていると「間違い」を極端に嫌うということが改めてわかってきました。高学年を担任された先生方は、すぐにイメージできると思うのですが、4月の授業開きで「これわかる人？」なんて発問しても気を使って何人かが手を

挙げるだけで、ほとんど相手にしてくれないものです。つまり、たくさんさんの失敗や間違いで傷ついた経験を持つそんな子どもたちに向かって、「教室は間違うところだ」と主張しても全く意味がないということですからこそ、言葉に縛られることなく、目の前の子どもたちをスタートに指導できる教師でいたいと常に願っています。それが私の考える教師力の一つです。

### ②「目立たない子」ではなく、

目立たせてもらえていない子

しんどい子ども、学力が低い子ども、発達障害のある子ども、様々な子どもたちが毎日学校に登校してきます。そんな中で、学校という場所ではいろいろなことが起こります。時には心がくじけてしまいそうになることもあります。しかし、忘れてはいけないことは、「どの子どもも学校に来てくれてありがとう」という気持ちです。なん

だか綺麗ごとを言っているように思われるかもしれませんが、学校にスムーズに来れない子どもを担任した経験から、「学校がおもしろい」「学校ってなんかええな」って自然に思ってもらえることは本当に幸せだと思えるようになりました。だからこそ、教師の先入観である、「この子どもはできる」とか「この子どもは・・・」という、子どもへのせいにするような教師ではいけないと感じるようになりました。

「鈴木先生」という漫画(ドラマ)をご存知ですか。鈴木先生のクラスの生徒(中学生)には、いわゆる不良や問題児はいません。普通の生徒の集まりです。そんな普通の生徒であつても、実は問題を抱えているということ、鈴木先生が、解決してしまふのではなく、生徒たちに考える機会を与えみんなで解決していくストーリーです。その物語に、こんなセリフが出てきます。

「今の学校教育は、我々が普段思っている以上に、手のかからない生徒の心の摩擦の上に支えられてるんだ。どんな生徒に對しても手が足りないなか、教師たちは結局、目立った問題を起こす生徒に多く

の力を割かざるを得ない。

問題のない生徒は、恐らく潜在的に、問題児への嫉妬心を抱いているに違いないんだ。問題児の心の中に、優等生への妬みが存在しているのと同じようにね。」  
どの子も伸ばす研究会の意味はここにあるのだと思います。

そこで私たちは、子どもたちが、やる気を手にしたかどうかということにこだわる教師になりたいものです。子どもというのはほめられた方向に育つと言われています。事実を正確にとらえて、ほめてあげると、その方向に育つものです。そのためには、子どもをきつちり見て、進歩しそうな点や伸びていることをきちんと把握していかなくてはなりません。子どもは、見てくれているということがわかると安心します。そこから子どもに向けての励ましの言葉が生まれてくるものです。そして、その最たる場は授業です。どの子どもも大切にすること、これが私の考える教師力の二つ目です。

### ③「学習意欲」は、教師が育てるもの

「できる感を味合わせてあげられる教師」

この時期は「型」にはめてしまうことが特に多いでしょう。システムと言ってしまうとかっこいいのですが、子どもにとってはその型に慣れるのは大変なことです。そこで、私たちはそこにどんな意味があるのか、どんな意図があるのかを持つておく必要があります。そしてそこから、「できる」経験を少しずつ増やしていき、自信を持つてほしいと願って実践しています。自分の伸びや成長を自覚出来た時に、意欲「やる気」は生まれてくるものです。

←

国語…みんなで話し合いをしているんなこと  
とがわかれたから。

国語…みんなと音読したりテストとかする  
から国語が好きになりました。

国語…みんなを悩ましてくれたし、自分たちで考えることもできたから。

国語…3年の時書いて読むだけでした、でも4年生になってから書いて読む、

それだけじゃなく話し合う、聞く力もわいてきて、楽しくなっているからです。

国語…音読も気持ちよく読めたし、メモも

いっぱいできたから

国語…走れの時、発表する時わからない所があつたら先生がわかりやすく教えてくれるから。

国語・算数…なぜかというところ、ノートをいっぱい書けるようになって  
楽しかったし音読も楽しいです。

算数・体育…算数は得意で好きで、体育は立ちブリッジ全員できました、  
プールが楽しかったです。

このように言語化する機会をきつちり持つこともポイントです。「サクセスログ」というものが四年生の教育技術（小学館）で紹介されていました。成功していることに目を向け書きだしていく作業のことです。

どんな小さなこと、どんな些細なことでも良いので、気づけるようになっていくことで子どもたちの考え方までも変わっていくようです。子どもは褒められるために学校に来ている、子どものせいにするのではなく、子どもの良さを引き出す教師を目指す力、私の考える教師力の三つ目です。